



本号の主な内容

- 2面 屋上緑化160ha、壁面緑化10haに【緑滴】【事務局より】
- 3面 【技術レポート No.027】
チェルシーフラワーショウに出展して【後編】
- 4面 【総・支部より】
宮崎県支部・長野県支部・東北総支部



あいさつする佐藤四郎会長

日造協 技術情報共有発表会 初開催で6 総支部が発表

日造協は8月28日、初めての開催となる「技術情報共有発表会」を東京・港区浜松町のコトブキDIセンターで実施した。

将来が期待される第一線の技術 会員外に向けたアピールも検討

技術情報共有発表会は、全国各地で蓄積された貴重な造園の技術情報を共有・活用して、一層の技術力向上を図ろうと、会員を対象に実施し、会場には全国各地から約百人が集まった。発表会は、冒頭、佐藤四郎会長があいさつ。次いで技術発表となり、総支部ごとに北海道・ランドスケープ・アーキテクトが考える防雪林について、川嶋道彦氏(株サンコト緑化)が防雪林整備を造園業の視点から捉え、その技術的課題と新たな提案事業の一例となるものとして話題提供。関東・甲信・エコーアソシオンを紹介した。休憩の後、近畿・京都迎賓館その作庭技法について、井上剛宏氏(株植芳造園)が、京都迎賓館の作庭技法のポイントについて、四国・グリーンワーカー事業(篠山アケボノツツジ群落保全事業の取り組みについて)、小塩貴氏が、根返り対策、後継樹の育成のための実生、挿し木による育苗に取り組んでいることなどを報告。

全国造園デザインコンクール NHKが後援承諾

平成19年度のデザインコンクールは、今年で34回目

となり、今年度は、このデザインコンクールの目的に賛同いただき、NHKの後援を受けることとなりました。会員の皆様から応募をお待ちしております。

九州「河川敷地の緑化施工について」藤田良司氏(株九州造園)、藤原和也氏(株大山)が、独自の緑化(芝生化)により、降雨による洗掘にも耐える河川緑化の技術をはじめ、雨水を利用した高架下植栽などをさまざまな事例を紹介した。その後、参加者から活発な質疑が発表者に行われ、具体的な技術情報についての関心の高さが伺われた。その後、すべての発表を受けて、日本造園学会副会長で、造園CPD推進委員長などを歴任している島田正文・日本大学教授が講師、今後、国土形成計画の地方計画においてランドスケープを大切にしたい視点が重要で、さらに生物多様性、観光立国が国の重要施策にもなってくるが、今回の発表は、こうしたこれからの国づくりに必要となる技術であり、第一線で実際に取り組まれたものであることを、将来性を感じる。迎賓館については、昨年、造園学会から管理のあり方について、内閣府に提言を行っているが、業界の外へ向けたアピールも重要だ。今回の発表会は、会員向けというところで情報のストックも大切だが、ぜひ社会へ向けた発信も行つて欲しい。国際的視野を持ちつつ、学会やその他の研究機関技術報告や研究発表を通じての情報発信が有効だと思う。この情報は、高橋一輔技術委員長が行い「情報は出さなければ集まらない。日頃から積極的に提案が出来るようアップも大切。造園家一人ひとり、造園界全体で、こうした動きを広げていきたい」とした。

樹林

私たちは、AIPH(国際園芸協会)の日本代表組織として、数々の国際園芸博覧会、主役としての役割を果たしてきた。ところが、日本園・公共造園は、造園建設業領域、洋風庭園(ガーデン)、一般住宅庭園は、ガーデンデザイナー領域と、なんとなく線が引かれている感がある。

造園建設業の領域拡大について一考

社団法人日本造園建設業協会 副会長 五十嵐 誠



今、世の輿論を中心に、ガーデンングといわれる時代なのである。造園とガーデンングは、連動の。

平成2年に、大阪で開催された「国際花と緑の博覧会」は、会期中2000万人を超す入場者を集め、大成功をおさめた。国際園芸博覧会が、欧米の地以外で開催されたのは、これが初めてとされる。園芸は、欧米のものとの認識が強かったのであるが、見事にアジアの地において、そんな見方を蹴した博覧会となった。

この博覧会の成功を受けて、平成2年に出された都市計画中央審議会答申「今後の都市公

り組まなければ、造園建設業としての領域を、スリム狭めてしまつていけなくなる。そこで一考してみよう。

・市民共々のスタンスは、お題目だけで企業経営として実践してこなかった。欠けていた。例えば、ガーデンングチームに対応して造園建設業としての取り組みを試みたか。

・事業費の大きなものしか興味がない。ガデ

近年は、ガーデンングブームで、一般の住宅の庭にも、そのリフォームを含めて、プロに頼みたいとの需要がある。積水ハウスリアカが「ガーデン」といった言葉が、この領域に注力している。それは、この領域に確かな市場が形成されているからにほかならない。

ガーデンングには、公的資格がない。園芸、草花に強い造園施工管理士を先頭に、造

ガーデンングは、成長産業と位置づけられ、1998年以降年率5%の成長を見せ、2000年4年の市場規模は、7600億円、2008年には、9600億円と見込まれている。その背景には、ガーデンングは不動産価値を高める、高齢化社会となり、体力的にきかない余暇として注目が高まったことがある。とされ、ロンドン市内だけで200コースもの

近年は、ともに「チェルシー・フラワーショー」や「ハンプトンコート高級フラワーショー」などが、国際的にも人気を高め、まさに大人のテーマパークとして多くの人心を魅き集めている。このような状況によって、ガーデンングの催しには、有カスポンサーがますます増え、それが、ますますガーデンングの世界に拍車をかけることになっていくであろう(日経新聞)。

わが国に、そのままではまるとは言えないが、昨今のガーデンングブームの状況を見れば、近々、英国の状況と同じレベルに達することは予想できる。欧米との住宅事情の違いが、気候の違い等、わが国に合ったガーデンングを模索してゆくことが、今後の課題となる。

是非とも、わが国において、ガーデンングを通じて、全国的な、地域的な、造園カリスマを育てたいものである。まずは、市民が気軽に訪れられる店づくりから始めて、造園建設業を市民に馴染みのある産業とすることが、領域拡大の一歩なのかも。

全国労働衛生週間
9月1日~30日まで準備期間
本週間は10月1日~7日

働く人の健康の確保、増進を図り、快適に働くことができる職場づくりに取り組み全国労働衛生週間は今年で第58回目。今回は、「こころにゆとり、からだに余裕、みんなであそべる健康職場」をスロガに、9月1日から30日までを準備期間、10月1日からの1週間を本週間に全国一斉に積極的な活動が行われる。各事業所でも、自主的な労働安全衛生活動を図りたい。

緑 滴

弊社の所在地である東京都渋谷区の代官山地区。皆さんはどのようなイメージをお持ちでしょうか。テレビやマスコミで話題のフティックカフェやレス・トランなど数多くのおしゃれなお店のある街etc.様々なイメージをお持ちかと思えます。今回は、代官山の紹介と地域の取り組みを少しお話ししたいと思います。

代官山の歴史は古墳時代の円墳なども残っているように古いのですが、街並みが大きく変わってきたのが関東大震災で東京が被災し、被災者の救済のため「渋谷(代官山)同潤会アパート」が昭和2年に建設されたことで大きく変わっていきまし

た。その後代官山の象徴となる大規模集合住宅「代官山ビルサイドテラス」が、戦後モダニズム建築の雄 横文彦氏と地主である朝倉家が手がけ昭和44年に完成し、その後30年以上にわたる住宅計画は続きました。その豊かなパブリックスペースを活かし、建築・美術・音楽を中心とした文化イベントを開催するほか、共催事業も多数実施し、その成果によって、芸術文化の振興に高く貢献した企業・団体を表彰する「メセナ大賞」を平成10年に受賞しています。その後さらに代官山の景観が大きい変革を迎えました。昭和58年に「渋谷(代官山)同潤会アパート」の老朽化に伴い建替えが検討され、平成8年に惜しまれつつ解体されることとなり、平成12年に超高層住宅を中心とした集合住宅と商業施設、公共施設等を備える都市居住空間「代官山サイド」が新たに再生されました。

このように歴史背景の中、近年「東京砂漠」という言葉ができたように、東京の人は人情がないとか、隣近所は見知らぬ人などよく言われがちで、私も代官山地区も同様、失礼な言い方をすれば「よそ者」の集まりで、町内会など形だけのものというイメージを持っていました。

しかし、昨年、とあることで地元の方が当社を尋ねてこられ「代官山」は「代官山」に住む人、働く人、訪れる人々が、育てたその苗を自分たちで植えて、花が咲くまでみんなで水をやり、手入れをして夏にみんなで見賞を争うので協力していただけないか」と熱心に話していただきました。その人は「代官山ステキな街づくり協議会(通称代官山ステキ)」の理事で、建築家の石原貞治氏でした。

「代官山」は「代官山」に住む人、働く人、訪れる人々が、育てたその苗を自分たちで植えて、花が咲くまでみんなで水をやり、手入れをして夏にみんなで見賞を争うので協力していただけないか」と熱心に話していただきました。その人は「代官山ステキな街づくり協議会(通称代官山ステキ)」の理事で、建築家の石原貞治氏でした。

「代官山」は「代官山」に住む人、働く人、訪れる人々が、育てたその苗を自分たちで植えて、花が咲くまでみんなで水をやり、手入れをして夏にみんなで見賞を争うので協力していただけないか」と熱心に話していただきました。その人は「代官山ステキな街づくり協議会(通称代官山ステキ)」の理事で、建築家の石原貞治氏でした。

「代官山」は「代官山」に住む人、働く人、訪れる人々が、育てたその苗を自分たちで植えて、花が咲くまでみんなで水をやり、手入れをして夏にみんなで見賞を争うので協力していただけないか」と熱心に話していただきました。その人は「代官山ステキな街づくり協議会(通称代官山ステキ)」の理事で、建築家の石原貞治氏でした。

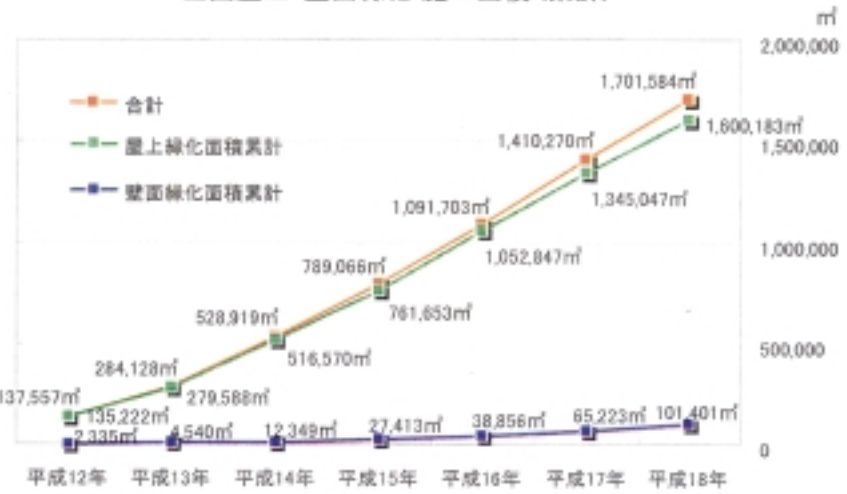
「代官山」は「代官山」に住む人、働く人、訪れる人々が、育てたその苗を自分たちで植えて、花が咲くまでみんなで水をやり、手入れをして夏にみんなで見賞を争うので協力していただけないか」と熱心に話していただきました。その人は「代官山ステキな街づくり協議会(通称代官山ステキ)」の理事で、建築家の石原貞治氏でした。

「代官山」は「代官山」に住む人、働く人、訪れる人々が、育てたその苗を自分たちで植えて、花が咲くまでみんなで水をやり、手入れをして夏にみんなで見賞を争うので協力していただけないか」と熱心に話していただきました。その人は「代官山ステキな街づくり協議会(通称代官山ステキ)」の理事で、建築家の石原貞治氏でした。

「代官山」は「代官山」に住む人、働く人、訪れる人々が、育てたその苗を自分たちで植えて、花が咲くまでみんなで水をやり、手入れをして夏にみんなで見賞を争うので協力していただけないか」と熱心に話していただきました。その人は「代官山ステキな街づくり協議会(通称代官山ステキ)」の理事で、建築家の石原貞治氏でした。



全国屋上・壁面緑化 施工面積(累計)



屋上緑化160ha、壁面緑化10haに

国土交通省が全国の施工面積を調査

国土交通省は、屋上・壁面緑化空間ほどの程度創出されているか把握するため、全国屋上・壁面緑化施工面積調査(平成12年~18年)をまとめた。

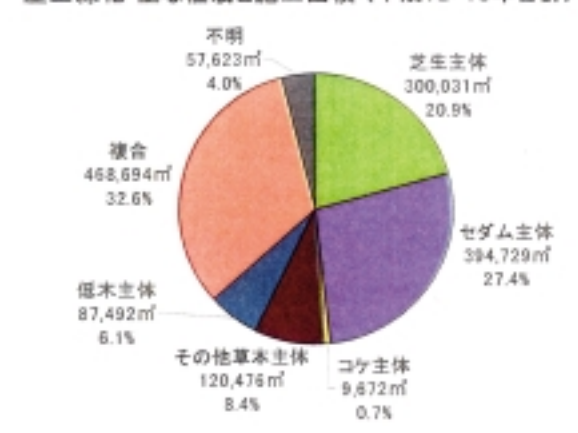
調査は、全国の造園建設会社、総合建設会社、屋上緑化・壁面緑化関連資材販売・施工会社339社に対し実施し、171社(回答率50.4%)から回答を得た。

これによると、平成18年度中に、新たに25.5haの屋上緑化・壁面緑化も大きく、大都市での施工面積が大きい。植栽の変化をみる

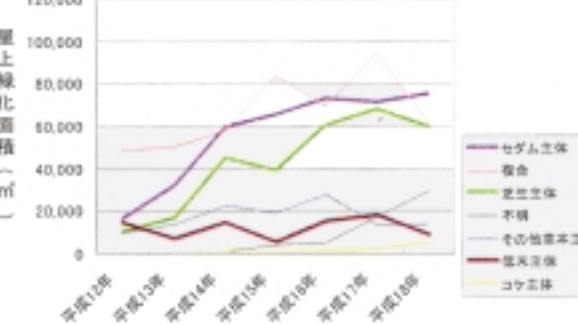
また、累計の施工面積は平成12年から18年の7年間で屋上緑化が約160ha・壁面緑化が約10haとなり、セダムと芝生が約半分の割合を占めている。

屋上緑化の主な植栽は、複合が32.6%と最も多いものの個別種では、セダムが27.4%、芝生20.9%となり、セダムと芝生体の植栽が約半分を占めていることがわかった。

屋上緑化 主な植栽と施工面積(平成12-18年合計)



屋上緑化 植栽の種類にみられる変化(各年)



と、平成12年は全体の48.1%を占めていた複合が平成18年には24.2%と半減。低木主体も14.8%から3.7%と4分の1になり、セダムや芝生主体が約2倍となっている。

建築物の用途では、住宅が21.7%、教育文化施設が13.4%、医療福祉施設が12.4%、商業施設が11.1%、事務所が8.6%、官公庁施設が8.1%、工場・倉庫が7.2%で、平成18年の単年でみた場合、住宅に次いで商業施設が多くなり、導入が進んでいることがわかった。

事務局の動き

- 4(火) 総務委員会広報部会「広報日造協」編集会議
- 6(木) 都市再生機構植物管理のありかた検討委員会
- 7(金) 建設業労働災害防止協会「危険性・有害性等の調査」編纂会議
- 9(木) 北海道総支部「植栽基礎・労務費対応研修会」正副会長・常設3委員長合同会議
- 12(水) 建設業労働災害防止協会「危険性・有害性等のマニュアル委員会」ワーキング・グループ委員会
- 13(木) 街路樹剪定士指導員レベルアップ研修会(沖繩総支部)
- 18(火) 街路樹剪定士指導員レベルアップ研修会(近畿総支部)
- 19(水) 「植栽基礎診断士」認定審査委員会
- 21(金) 建設業CPRDシステム部会シンポジウム
- 26(水) 7日本造園修景協会総務委員会
- 28(金) 日本造園建設業厚生年金基金理事会

平成18年9月12日に指定を受けた景観整備機構と、その後の活動について報告する。日造協にとって景観整備機構の指定取得の意味は、創生に向けての手段と造園業界の存在のアピールであり、協会の意識の高揚と考える。まず、指定を受けた日造協を広く認知してもらう為にパンフレットの作成をした。内容は、日造協が取り組む業務について写真等を使用し分かり易く解説したものとした。パンフレットは、静岡県都市計画室主催の県内市・町の景観担当者を対象とした景観実務講座で支部長の講演と共に配布し、指定された日造協の存在を県内の市・町に対して広報することが出来た。また、11月には県公園緑地室との共催で静岡県都市緑化技術研修会を企画し、「美しい景観づくり」と題して3人の講師に講演をお願いした。

静岡県道路公社より県東部地区の観光道路である伊豆スカイラインについて、美しい道路景観づくりの調査及び技術提案の依頼があり、支部技術委員会を中心にメンバーとする作業部会を立ち上げて調査に取り掛かった。年度末をむかえ、時間のやり繰りに困難を極めたが、A4版10頁にまとめた報告書を提出した。実践的で問題点が分かり易いとの評価であった。19年度に入り、報告書で新規に植栽すべきと提案した地区については、景観形成上現地に適した樹種等の情報提供を行っている。

以上18年度の主たる業務実績について報告したが、指定を受けて10カ月経過の中で感じたことは、広報活動の結果業務受託をして報告書にまとめる過程において、各自が自社で仕事を抱えながらの作業となる為に時間の調整が難しく、日常の自社業務と必ずしも一致しない内容であるので、思わぬ時間を要する。しかしその反面、調査研究など、議論する過程においてお互いの連帯感が生まれると思われ、実務に携わった会員はもとより、支部会員にとって創生に向かっている手段としては無論のこと、会員の意識の高揚という点においても十分に役割を果たすこと出来る景観整備機構の指定取得であると考えている。

静岡県支部長・福井 啓介
事務局局長・西島 一郎



技術レポート No. 027

チェルシーフラワーショウに出展して(後編)

内山緑地建設(株) 内山ガーデン&アーボリータム推進室 鳥飼 寛子

が伝わる訳ではありません

「EAST WIND」は、その目に見えないものを自らに見え形です。来場者の多くの方々に「EAST WIND」を感じてもらえたいと思います。

「EAST WIND」の結果はシルバームタル、ゴールドメタルとシルバームタルの間にはシルバームタルがあるので、実質的には3番目、チェルシーの壁は厚かったが、我が家にとの商談も数件ありました。

地元業者との協力

コンテストの出展、特に土地勘のないところで、短期間に施工し、地元の素材などを活用するためには、現地の施工者との協力が欠かせません。

今回の庭園では、イギリス・ウエストミッドランド地方を拠点とする「個人邸やホテルなどの庭園デザイン・施工を手がける英国庭園」についての豊富な知識と経験を持つガーデンインスピレーション代表のクリスチヤン・ドゥル氏の施工協力で庭園を施工しました。

一見日本では、ありふれた庭園に見える庭園ですが、庭園・張り石など材料は全てイギリス産のシヨウガーデンとしては地味ですが、落ち着いた「寛げる」空間ができました。

やはり、造園は現場の気候や風土、素材、文化を知っていることが何よりで、短期間のイベントでは、問題にならない植物の生育などは、現地の専門家でないとは分りませぬ。

また、短期での施工はそれだけ人員も要するので、こうした経費もかさみ、日本から大人数で渡航するのは現実的な対応とは言えません。そういった意味でも、地元の良い協力者が得られたことも成功の要因でした。

スポンサーシップ

今回の出展で、日本ではまだ少ないスポンサーシップが印象的でした。庭園の出展にはかなりの経費が必要で、シヨウそのものの開催にも多くの費用が掛かります。

こうした費用を担っているのがスポンサーで、シヨウの開催前にはメインスポンサーのMasaba社が主要な出展者を招いて盛大な歓迎セレクション開催され、その華やかさに驚きました。

それぞれの出展庭園にもスポンサーがあり、イギリスで20年以上歴史を誇り、「A&A」の格付けを持つロイDTSB銀行などの名前も見られ、スポンサーとして庭園に理解を示すことが社会的ステータスとなり、企業のイメージアップに実効を果たしているのが伺われました。

スポンサーは会期中はもちろんです。ホームページや各種案内に明記され、個別の庭園に対するスポンサーの場合、コンテストでメダルを取得した際には、デザイナー・施工者と共に大いにアピールされることになり、花や緑に理解のあるスポンサーとして世界に知られることになりました。

日本でも施主さんのさまざまな思いが込められたお庭であるというセイセイナリー世代

とともに、庭園がステータスになっていく部分があり、かつての大庭園などは顕著な例だと思えます。

日本では寄付行為などの問題もあると思いますが、こうした庭園を持つだけのステータスではなく、理解し、協力する方々にも広げていく、より広い庭園文化が求められているといえます。

英国庭園と日本庭園

今回の出展庭園のコーディネーターであり、「君津ガーデンセンター」での社員を含めた研修などで、日頃からお世話になっているセイセイナリー世代

表の二宮考嗣さんは、1995年にチェルシーフラワーショウで日本人初のゴールドメダルを受賞した方で、各国のフラワーショウで審査員を務められています。

幾何学的で自然を征服したかのような庭園をつくることで、自らの権威を示したり、自然の脅威から逃れたコートピア、理想郷とするなど、いろいろな想いからさまざまな様式が生まれてきたが、こうした洋風庭園の最終到達点が自然との調和とされた「インテグレーション」になり、一方に心象、事象ともに自然の再現を図ってきた「日本庭園」があり、この二つが現在の庭園の大きな流れで、洋のビジュアル性と和のメンタル性の融合が進んでいるようです。

二宮氏には、豊富な経験と知識から、さまざまなことを学ばせていただいています。二宮氏は「一度開発すると、もとの自然に戻すのは不可能。しかし、自然に近づけていくことは可能。その土地に合った植物を知り、人を含め多様な生き物が住みやすい環境を創造したい」と自らの仕事の意義を示してあります。

世界はさまざまなコンテストを見続けている中で感じることは、世界の庭園は「自然と人の調和、融合」とおっしゃっています。

自然に近づけていくことは可能。その土地に合った植物を知り、人を含め多様な生き物が住みやすい環境を創造したい」と自らの仕事の意義を示してあります。



出展庭園の植栽



多くの見学者が訪れた



二宮氏の研修会(君津)

地球温暖化対策、防災公園をはじめとする安全、安心の街づくりなど、造園が関わる領域は広く、あらゆるものの融合が求められています。

しかし、景観や環境創造の基盤となる公共事業は、国や地方公共団体とも財政難から縮減し続けています。心の豊かさを求められつつも、まだまだ経済ベースの社会であり、総合評価などの取り組みが進められるなど、こうした価格偏重の改善が図られていますが、造園的な質が適切に評価されるような景観・環境事業は現在、具体的事業としては形を表現していないのではないのでしょうか。

いろいろなものの融合

当社は、チェルシーフラワーショウでの出展を機に環境の世紀における「美しい緑の景観・環境、創造事業の振興に一層努めてまいります」といたしました。もちろんこれまでの延長線上にあり、業容が様変わりする訳ではありません。庭園、公園だけでなく、さまざまな緑に関わる空間の創造に取り組みできるとの考えからです。

ガーデニングだけでなく、景観緑三法や観光立国、生物多様性の保全、ヒートアイランド・

な目標として掲げられ、誰もが求めながら、個別においては遅々として進んでいないのが現状です。

このように造園業界を取り巻く環境は、大きな流れの中では環境保全、快適で安全な暮らしを求めるといった絶対的条件といえるものの、具体的、個別の案件となると、現在の制度的な問題、造園への理解不足から、とくに厳しい条件になってしまっています。

しかし、制度の改善、社会の理解が足りないことを憂い、さまざまな要望、アピールを続けていくことも大切だと思えます。制度や社会が変わってくれることを待っていたのでは、よい良い環境づくりや良好な環境保全が遅れ遅れになってしまっています。

CO₂排出削減すら、世界的な足並みが揃わない状況の中で、見識のある科学者の方々は、遅々として進まない地球規模的な環境保全の必要性を絶えず訴え続け、それが良識のある科学者の社会的な使命だとおっしゃっていらっしゃいます。

当社の君津グリーンセンターもその一環で、単に緑化木の生産、施工にとどまらず、植物を扱う技術と精神の両方が求められているとの認識から、造園の精神性も見て、感じていただけると、単に緑化木を並べるだけではなく、既存の樹木を生かした園地としての整備が進められてきました。

「やりがい」のある造園に人々の趣向やデザインは時代とともに変化しますが、普遍でもっとも重要なものは「心」。「EAST WIND」が持つ精神性がテーマとなつた費用面だけ、樹木等の剪

定・伐採を単に可哀想と批判する方々など、造園業界の外側には、造園の本質がまだまだ理解されていませんが、企業倫理などが問われる時代になり、精神性への理解が今後広まっていくと考えられます。造園業界からもっと積極的に発信をしていくことが大切なのではないのでしょうか。

また、ガーデニングをはじめ、豊富な知識を持った個人や動物植物に詳しい専門家など、同じ専門家として尻込みしたくなる部分も多々あります。造園は、取り扱う領域が広くなる分、専門的知識は確かに不足がちです。ただ、それを言い訳にしていたのでは、先に進めませぬ。

知識や経験は積み重ねなければ増えませんが、より良い環境を創造したいという熱意こそ、一番の売り物なのではないのでしょうか。

指定管理者制度などで、利用者の直接の反応を得る機会も増え、責任とともにこれまで味わえなかった「やりがい」も出てきました。「やりがい」があるからこそ頑張ることができると。こうした「やりがい」を感じられる業務を通じて、造園の本質を理解してもらおうと、造園事業の適切な実施が図れるのではないのでしょうか。

今回のチェルシーフラワーショウへの出展で、本当にいろいろなお話を学ぶことができた。日本の造園の本質が世界の舞台で十分に認められたと捉え、今後につなげていきたいと考えています。

現在、来年のチェルシーフラワーショウ出展に向け、準備を進めているところです。来年はさらに良い色のメダルを獲得できるように頑張りたいと思っています。

総・支部 だより

各総支部・支部からの記事を紹介します

フェニックス救済への挑戦 宮崎県民公開講座を開催

宮崎県支部

日造協宮崎支部では、「フェニックス救済への挑戦」をテーマに、平成19年度宮崎県民公開講座を開催し、県内外の行政・学協会・民間をはじめ、日造協会員など、約200名が参加しました。



あいさつする田中支部長



山口氏の講演のもよう

ている熊本フェニックスについて、産官学の連携を強化、防除研究の除去を共有し、効果的な対策を図ることなど、書中や病原菌から守る対策を話し、宮崎県で、当該部と日本造園修景協会宮崎支部、NPO郷土のフェニックスを守り育てる会が主催、国土交通省九州地方整備局、宮崎県、宮崎市の後援をい

たいて実施しました。フェニックスは、大西洋カナリ諸島を原産とし、南国・宮崎を代表する樹木として、昭和41年に県木として指定されましたが、現在、ヤシオオオサンウムの食害とフザリウム菌による立ち枯れ被害が拡大し、危機にさらされています。

このため、日造協宮崎支部では5年前よりこの問題に取り組み、3年前には都市緑化月間講習会として、「フェニックス」危機とその挑戦」を開催し、九州各県等に警鐘を鳴らしました。

そこで今回は熊本フェニックスの救済を県民運動化すべく、広く県民公開講座とし、原因から現在の対策状況まで広く情報公開することとしました。当日は、田中和紀・日造協宮崎支部長の開会あいさつに続いて、「宮崎におけるフェニックス被害の現状報告」山口裕二氏(宮崎県環境森林部)、「フェニックス」被害の原因と対処方法 新谷喜紀氏(南

九州大学)、「フザリウム菌による被害と対処状況」尾崎宮司氏(南九州大学)、「フェニックス」立ち枯れ被害の対処事例報告 馬原久年氏(熊本県造園建設)の各テーマで関係諸氏が講演。

このうち、ヤシオオオサンウムについては、宮崎県における発生が確認された平成10年から昨年3月までの被害本数が、確認されているだけでも318本に上っていることが報告され、フェニックスの幹の上部や葉っぱの付け根付近で孵化した幼虫が内部を食害するため、中心部の葉っぱが枯れはじめ、次第に力なく垂れ下がり、立ち枯れの状態となってしまう症状を解説。この対策として、平成11年度以降の7年間に、国県市町村、民間のフェニックス353本のうち、行政保有の約2000本については、防虫ネット・薬剤防除・フエロモントリップ・薬剤注入等の予防対策が講じられ、被害は抑えられていることを紹介。

しかし、全体では平成14以降被害本数・発生地区とも増加傾向にあり、行政の保有するフェニックスへの対策のみでは十分な予防策とならず、広く民間の古民家の庭先に日造協宮崎支部会員から6点「道端をいける」は、ふるさと村へ通じる途中のお祭りひろば周辺に宮崎県柴田農林高等学校他から3点とあわせて20点、造園家、学生たちによる技で時のひろばからふるさと村まで花普請した。

今年、申し合わせたように竹を使った作品が目立ち、竹の活用に話題が集まるなど、新たな造園の匠の技アイデアを十分アピールすることができ、いつもと違った心の癒せる空間を創り出し、9日、10日の土、日曜日には、盆栽展、生け花展、お茶会、押花展・スクールクラフト展・スクール、絵手紙展・スクール、草木とあそび、篠笛演奏、琴演奏、風つくり、凧あげ、小鳥の巣箱つくりと多岐の技の展示と普及の教室を開催した。

グリーンサム物語

「花普請 in みちのく」開催

東北総支部

07月のおくグリーンサム物語を6月2日(土)から17日(日)まで、国営みちのく杜の湖畔公園の「ボビーまつり」に合わせて同公園内ふるさと村、時のひろばを会場にして開催した。グリーンサムとは、西洋

の物語で、少年は不思議な指を持ち、その指は触れると何にでも花が咲く、みどりの指で、いろんなものに触れ、花と緑をいっぱいにして人びとを喜ばせた。この少年のように花と緑の好きな人を総称してグリーンサムと呼んでおります。また、花普請は、私たちの造語で古来から神社、仏閣、道路などの普請が地域の人たちの共同作業や寄進により行われていたことになぞらえ

と村の古民家の庭先に日造協宮崎支部会員から6点「道端をいける」は、ふるさと村へ通じる途中のお祭りひろば周辺に宮崎県柴田農林高等学校他から3点とあわせて20点、造園家、学生たちによる技で時のひろばからふるさと村まで花普請した。

今年、申し合わせたように竹を使った作品が目立ち、竹の活用に話題が集まるなど、新たな造園の匠の技アイデアを十分アピールすることができ、いつもと違った心の癒せる空間を創り出し、9日、10日の土、日曜日には、盆栽展、生け花展、お茶会、押花展・スクールクラフト展・スクール、絵手紙展・スクール、草木とあそび、篠笛演奏、琴演奏、風つくり、凧あげ、小鳥の巣箱つくりと多岐の技の展示と普及の教室を開催した。

今年、申し合わせたように竹を使った作品が目立ち、竹の活用に話題が集まるなど、新たな造園の匠の技アイデアを十分アピールすることができ、いつもと違った心の癒せる空間を創り出し、9日、10日の土、日曜日には、盆栽展、生け花展、お茶会、押花展・スクールクラフト展・スクール、絵手紙展・スクール、草木とあそび、篠笛演奏、琴演奏、風つくり、凧あげ、小鳥の巣箱つくりと多岐の技の展示と普及の教室を開催した。

今年、申し合わせたように竹を使った作品が目立ち、竹の活用に話題が集まるなど、新たな造園の匠の技アイデアを十分アピールすることができ、いつもと違った心の癒せる空間を創り出し、9日、10日の土、日曜日には、盆栽展、生け花展、お茶会、押花展・スクールクラフト展・スクール、絵手紙展・スクール、草木とあそび、篠笛演奏、琴演奏、風つくり、凧あげ、小鳥の巣箱つくりと多岐の技の展示と普及の教室を開催した。

今年、申し合わせたように竹を使った作品が目立ち、竹の活用に話題が集まるなど、新たな造園の匠の技アイデアを十分アピールすることができ、いつもと違った心の癒せる空間を創り出し、9日、10日の土、日曜日には、盆栽展、生け花展、お茶会、押花展・スクールクラフト展・スクール、絵手紙展・スクール、草木とあそび、篠笛演奏、琴演奏、風つくり、凧あげ、小鳥の巣箱つくりと多岐の技の展示と普及の教室を開催した。

着任して4カ月

主要2事業をご紹介

長野県支部

支部の事務局長に採用され、この4月1日から勤務しました。よろしくお願ひいたします。

この4カ月余り仕事に追われる日々でしたが、これまでの主な事業2つを紹介いたします。

4月8日を「芝の日」と制定し、「緑いっぱい」の街

づくりを目指そう」のスト

ーガンのもとに、県内3カ所でイベントを実施するとともに、若林環境大臣(当時)

と川淵7日本サッカー協会キャプテンのメッセージを載せた啓発記事を地元紙の一面に広告掲載しました。

地球温暖化防止、ヒートアイランド現象を緩和する

会員の造園技術のレベルアップを図るため、「造園

施工技術研究会」をスタートさせました。これは、会

員が施工中の現場を舞台に、会員が持つ造園技術をPR

するのと同時に、施工における課題・問題点を参加者

終わりに、当支部に限らず、会員は年々減少してい

る現状にあります。微々たる力量ですが、私なりに会

員に魅力あるそして親しみのある協会にしていきたい

と思っています。(事務局長・長田憲治)



松本市芝沢小学校では、会員が、PTA、児童、学校職員と協力し、芝の張り替えを行った



巨石をいける



民家をいける



道端をいける

(事務局長・飯沢幸雄)